

学生大使 実施報告書

氏名：菅原 昂大

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部・文化創生コース・3年

派遣先大学：ラトビア大学

派遣期間：2024/09/01～2024/09/14

1 日本語教室での活動内容

今回は個人的には、ホワイトボードを使った日本語の文法や言葉に関する授業と、パソコンを使った文化交流的な会話の授業の2軸で行った。ホワイトボードを使う授業は、なるべく実用的で、日本に来た際に役に立ち、使って楽しい日本語に触れてもらえるようにした。反応も上々でよかったと思う。ただ、私の英語力が足りないせいでうまく伝わらなかった部分もあるということが反省点である。授業内容を具体的に思い返してみると、日本語の自己紹介、「やばい」「お願いします」といった日本でよくつかう多義語の説明や、英語でいう第四文型に当たる「～を～にあげる」の文章の説明などを行った。

会話の授業ではパソコンで実際の画像を表示しながら物や町、文化について語った。日本で人気の観光地、また派遣先の観光地に関してはよく話題に上がるので、日本地図や派遣先の地図をダウンロードしていけばよかったと思った。また、実際に地図を持っているとさらに話しやすかったかもしれない。特に、ラトビアの食文化について語ったことを覚えている。伝統料理は何か、どこで食べることができるのか、逆に好きな日本食は何か、実際に画像を見ながら会話をした。

2 日本語教室以外での交流活動

ラトビア大学の学生や授業を受けに来ていた社会人の方と一緒にランチや夕食を取ったり、日中は街を案内してもらったりした。授業が夕方からだったため、お昼は自由に過ごせることも多く、行きたいところを提案して、連れて行ってもらったりした。連れて行ってもらったものの中で面白かったのはラトビア国立図書館だ。国立図書館は建物が新しく、建築物としても面白い形をしていた。中の展示も博物館や美術館に似たような展示物があったり、上階の展望台に行くとリガ市街を見渡すことができたりした。

週末はリガ市内の観光や、別都市への観光をしに行ったりした。リガ市内の観光では、森林の中にあるアスレチックや動物園に行ったりした。日本にも同様のアスレチックはあるのかもしれないが、海外ならではのスリルのある体験だった。動物園では日本にはいない動物がいたり、展示の工夫を感じたりすることができた。動物の写真がユニークだったり、各動物に絶滅の可能性があるかどうかチャートで示されていたりした。

別都市への観光では、クルティガという都市とベンツピルスという都市を訪れた。クルティガは昔ながらの街並みと美しい川が有名な都市だった。実際に川を渡ったり、昔ながらの街並みを歩いたりした。川越しに眺めるレンガ造りの歴史ある建造物の街並みがとても美しかった。ベンツピルスでは海と遊園地に訪れた。当日は天気も良く、波も穏やかで、水質も

【学生大使 実施報告書】

よかったため最高の眺めだった。クラゲが大量にいたが、人体に害のないものだったので、最初こそ驚いたもののすぐに慣れた。楽しかったし、美しかった。遊園地では手動のジェットコースターに乗った。自分でスピードをコントロールできるからこそそのスリルを感じた。ベントピルスで見たバルト海と夕日は一生忘れないと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回の参加目標は「自分の価値観を広げていく」とことと「日本を客観視する」ことだった。

「自分の価値観を広げていく」ことはできたと思う。いろいろな価値観に触れることができた。ラトビアは歴史的に複雑で、占領されて・独立して、を繰り返している。それが国の建築や文化にも表れていた。それらに触れることで、今までよりもその人や物のバックグラウンドを想像するようになったと感じる。なぜそうなったかを理解するために背景を理解することは何おいても大切だと考える。物事や態度に納得できないこともある。しかし背景を知ること、賛同はできなくても納得することはできた。いろいろな価値観に触れることでその納得することができる“幅”が広がったように感じた。

「日本を客観視する」ことはなかなか難しかった。ラトビアの中にもたくさん日本を発見することはできた。寿司屋が日本でいうタコス屋やシュラスコ屋に近い形で、ファストフードとして親しまれていたり、普通のスーパーでそばやうどん、カップヌードルを買うことができたりした。また、アニメや漫画のグッズを身に着けている人もちらほら見かけた。しかし、ラトビア側から見た日本というものを感じるのが難しかった。少なくとも悪い印象は受けていないようだったが、人によって感じ方も違うだろうし、日本自体がラトビアから特別注目されているわけではないように感じた。日本を客観視することは難しかったが、想像以上にラトビアの中に日本を感じることはできたと思う。

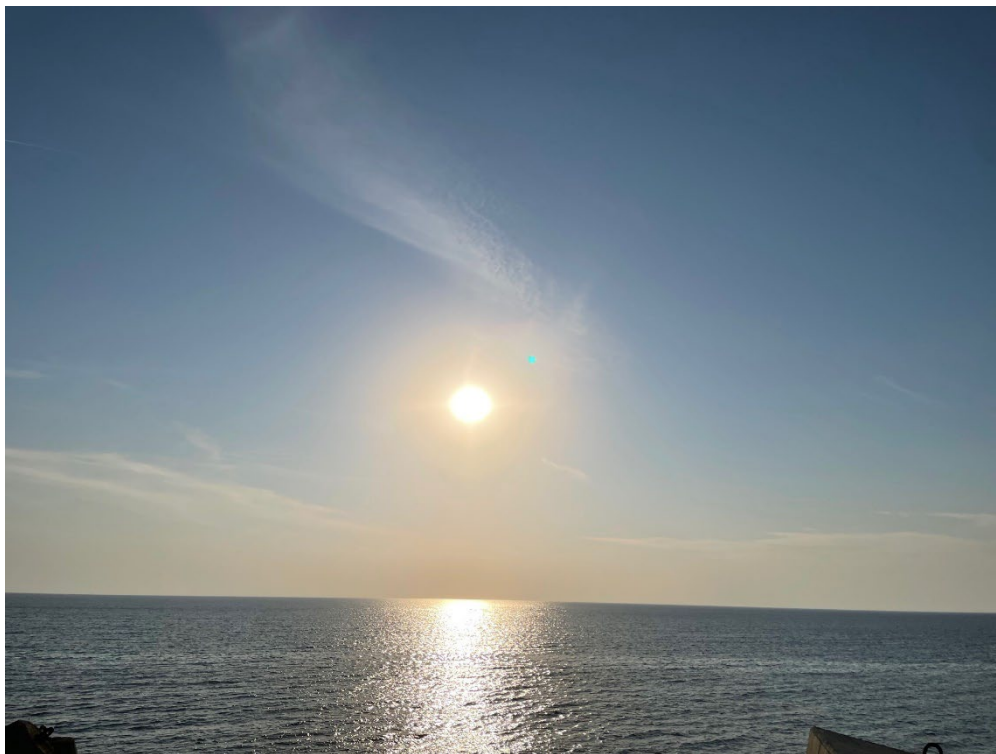
4 プログラムに参加した感想

とにかく楽しかった。ラトビアで友達もでき、交流を通して様々なことを経験することができた。時には疲れてしまうこともあったが、私自身は大きな体調不良もなく、終始異文化を楽しむことができた。特に、私の印象に残っているのは散歩だ。ラトビアでの散歩は刺激的だった。日本にはないヨーロッパ建築と石畳は、まるでテーマパークのようで飽きなかった。建築物ごとの特徴も感じながら周りを見渡して歩いていると音楽がどこからか聞こえたり、有名な観光スポットがさらりと現れたりする。日本では経験できないことであるうえ、街並みが無料であるのがたまらなかった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験から、将来海外での勤務もイメージできるようになった。どのような職業でも海外とかわる可能性があり、その際に海外に駐在することもあるだろう。そうなったとしても、今回の経験を活かして、人と関り、生活していくイメージを持つことができた。また、今後は国内だけでなく、国際的に注目されているニュースにも目を向けて、世界の人とかわる上で話題が尽きることがないようにしたいと思った。

【学生大使 実施報告書】



ベンツピルスにてバルト海の夕日



ラトビアの家庭料理” ペルメニ”

【学生大使 実施報告書】



リガの観光名所ブラックヘッドハウス



リガの夜